

平成26年度

いしかわニュースーパーハイスクール

事業報告書

石川県立七尾高等学校

1. 「学校設定科目」での取組

1-1 科目名「スピークアウト」

(1) 「スピークアウト」1年生(1単位)

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 1年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・グローバル社会で活躍するための資源、エネルギーとなる「英語」で、自分の考えを発信する力を育成する。

③日時内容

| | |
|--------|------------------------|
| 4～5月 | イギリスについての学習 |
| 6～7月 | 留学生(米国・モンレー市)との交流活動の準備 |
| 9月 | NZ高校生訪日団との交流活動の準備 |
| 10～12月 | テーマに沿ったプレゼン作成 |
| 1月 | 英字新聞を用いた表現活動 |
| 2～3月 | スピーチコンテストに向けての準備 |

12月18日(木)

「日本が世界でなすべきこと」をテーマにしたプレゼンテーションと質疑応答



生徒による発表



質疑応答

④生徒の変容

- ・一方的な発表から質疑応答による対話形式へと成長が見られた。
- ・想定外の質問への対応が速くなった。
- ・外国語研究部に所属する11Hの生徒が第57回石川県スピーチコンテストで優勝した。

⑤改善の方向性や取組

- ・本授業では話すことを主に置いている為、内容を深めるという点がやや不足した。準備、調査も重視するとよりよい成果が得られると思われる。

(2) 「スピークアウト」に係る講座

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 1年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・文章の構成を理解し、高度な読解力を身につける。

③日時内容

3月5日(木)90分1コマ、3月18日(水)90分2コマ

塾講師を招聘し、授業とは違う観点で、センター試験、難関大学入試問題を素材に高度な文章を読み解く。

④生徒の変容

- ・文章の論理構成を学び、英語だけでなく日本語でも文章を書きたいという意欲が強まった。
- ・まず自分の意見を持つ、という英語話者の発想を意識するようになった。

・伝わればよいという意識から、正確な文法が必要であるという意識の変化が見られた。

⑤改善の方向性や取組

今回学んだ論理構成の知識を活かして、論理的な表現力の育成にもつなげていく。

(3) 「スピークアウト」2年生(1単位)

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 2年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

・国際的な場面で自分の考えを英語で論理的に伝える力を育成する。

③日時内容

| | |
|--------|------------------------|
| 4～5月 | 「七尾高校の学校生活や歴史について」の発表 |
| 6～7月 | 留学生(米国・モンレー市)との交流活動の準備 |
| 9月 | イギリス海外研修に必要な実践的英会話練習 |
| 10～12月 | イギリス海外研修の事後学習とまとめ |
| 1月 | 英字新聞を用いた表現活動 |
| 2～3月 | スピーチコンテストに向けての準備 |



生徒への個別指導の様子



複数教師(6名)による指導

④生徒の変容

- ・「七尾まだら」や「よさこい」といった地域の伝統芸能について自分の英語で説明できるようになった。
- ・英字新聞を講読し、その内容について発表することで、世界に向けて視野を広げ、国際的な諸問題に対して自分の意見を発信することができつつある。
- ・外国語研究部に所属する21名の生徒が第57回石川県スピーチコンテストで準優勝した。

⑤改善の方向性や取組

- ・行事の準備に時間を費やしすぎてスピーキングを上達させる練習時間を十分に確保することができなかった。次年度はこの二つのバランスを調整し、より良い学習時間にしたい。

1-2 科目名「論述錬磨」

(1) 「論述錬磨」1年生(1単位)

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 1年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・さまざまな評論文を的確に読み取り、現代的な課題について理解を深める。
- ・基礎的な分析力とともに自己の考えをまとめ表現する力を身に付ける。

③日時内容

| | |
|--------|---------------------|
| 4～6月 | 評論文の構成・展開の理解 |
| 7～10月 | 文化・文明論の読解(異文化理解の基礎) |
| 10～12月 | 言語・芸術論・人生論の読解 |
| 1～3月 | 評論演習と生徒同士による解説・質疑応答 |

④生徒の変容

- ・普段の授業で扱う内容よりもさらに難しい問題を解くことでみんなと話し合っ理解を深めあいながら取り組むことができるようになった。
- ・応用問題に取り組む意欲が湧いた。

⑤改善の方向性や取組

- ・1単位での開講のため、演習と解説とが途切れてしまうことがある。時間割を変更するなどして、2～3時間集中して実施することが望ましい。
- ・評論文を優先して取り組んでいるが、小説・随想など、本文の内容を踏まえた心情を述べるのが苦手であり、次年度はこれらの分野も演習の対象としたい。

(2) 「論述錬磨」2年生(1単位)

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 2年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・現代的課題を理解・分析し、論理的に自分の考えを表現する。
- ・多様な分野の評論を読み解き、論理的な文章の構成を理解し、要約する力をつける。

③日時内容

| | |
|--------|------------------------|
| 4～5月 | 言語論(国際理解とのリンク授業) |
| 6～7月 | 認知哲学(国際理解とのリンク授業) |
| 9～10月 | 小説 分析・読解(芥川作品を題材として) |
| 11～12月 | 評論 分析・読解(様々な分野の評論を用いて) |
| 1～3月 | ハイレベル問題演習 |

④生徒の変容

- ・様々な分野の論文に触れたことで、知見を広めるとともに、評論文を読解する発展的方法が身に付いた。
- ・生徒同士の話し合い活動を通じて、評論問題の解答により高い精度で迫ることができた。

⑤改善の方向性や取組

- ・週一単位の授業では、一つの論文を継続して扱う授業展開が途切れがちになる。学校行事等に分断されることなく短期間に集中して取り組めるよう、時間割の調整が必要である。

(2) 「論述錬磨」に係る講座

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 2年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・抽象度の高い評論文を読解できる力を身につける。

③日時内容

3月5日(木)90分1コマ、3月18日(水)90分2コマ
塾講師を招聘し、難関大学入試問題を素材に読解力の向上を図る。

④生徒の変容

- ・本文を要約する力の重要性を理解し、文章構成を意識しながら読解するようになった。技術的なアドバイスを受け、「国語で点をとる」ということを具体的にイメージできるようになった。

⑤改善の方向性や取組

- ・冬以降の時期は受験シーズンに入るため講師の都合がつきづらく、また悪天候のために遠方から招聘する講師の日程を変更していただく事態も発生する。生徒に実践的な力をつけるためにも、開講の時期を秋以前に調整すべきである。

2. 「総合的な学習の時間」での取組

(1) 「国際理解」に係る講演会

演題「迷ったら、やってみる 芯のあるジグザグ人生のすすめ」

講師 島山 澄子 氏 (ケンブリッジ大学卒 Connect the Dots 運営委員)

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 1・2年 80名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・国際的に活躍する講師を招き、「グローバル人材にとって必要な資質とは何か」というテーマで考えを深めながら、自らの人生を切り開いてゆくことの重要性について学ぶ。

③日時

平成26年9月5日 (金)



ケンブリッジ大学での経験を語る



積極的に質問をする様子

④生徒の変容

質問 講演を聞き、自己の進路を考える上でモチベーションが高まりましたか。



(生徒アンケートより)

・「不安がなくなるまで待っていても不安はなくなることはない」という言葉で心が軽くなりました。将来、「留学する！海外で学ぶ！」という気持ちになりました。

・勉強はして終わるのではなく、それを使って何かを考え、発信するための情報収集だと分かり、自分の勉強に対する新たな見方を発見しました。

⑤改善の方向性や取組

・イギリス海外研修の事前学習として非常に効果的な講義であった。研修中に訪れるケンブリッジ大学もConnect the Dotsの講師による講義に参加する。これらのプログラムを有機的に結び付けることによって一層効果的なものになりたい。

(2) 「国際理解」2年生 (週2単位)

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 2年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・自他の地理、歴史、文化を理解し尊重する能力と態度を育成する。
- ・国際社会の諸問題について、自分の考えをまとめ、表現できる能力を育成する。

③日時内容

| | |
|-------|---------------------------------|
| 4月 | イギリス海外研修事前学習 |
| 5～6月 | ディベート大会「日本庭園はイギリスでビジネスチャンスがあるか」 |
| 7月 | 日本文化や七尾市の伝統芸能について調査及び発表内容の準備 |
| 9月 | 「国際理解」講演会 |
| 10月 | イギリス海外研修事後学習と学習内容のまとめ |
| 11～1月 | ディベート大会「英語を日本の公用語にすべきか」 |
| 2～3月 | イギリスを地理的、歴史的、文化的に深く学ぶ発展的学習 |



ブレインストーミングをしている様子



ディベートをしている様子

④生徒の変容

- ・筋道を立てて意見を述べるできるようになった。
- ・データを収集し、根拠を持って論証できるようになった。
- ・論証するためのデータを扱うことで情報の活用力が身についた。
- ・テーマについて賛否両論の面から考え、独善に陥る危険性を認識した。

⑤改善の方向性や取組

- ・ディベートの論拠をほぼインターネットからの情報に依存し、その信憑性に危ういものがある。生徒が論文や書籍を精読し、信頼に足る情報を積み上げて論を展開できるよう授業づくりに工夫を施す。
- ・ディベートにおける質疑応答の力を向上させる。そのためには幅広い知識を身につけて相手からの質疑を想定し、それらに対応する力を育成する。

(3) 「国際理解」3年生(1単位)

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 3年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・世界の思想について理解を深めることで、異文化の人と交流する上で必要な教養を身につける。
- ・多様な思想の成立とその特徴に関する知識をもとに、社会の諸問題を客観的に分析・考察する能力と態度を育成する。

③日時内容

| | |
|---------|------------|
| 4月 | 世界の古典思想と宗教 |
| 5～6月 | 世界の宗教 |
| 7月 | 西洋近現代思想史 |
| 9月 | 近代から現代へ |
| 10月～11月 | 世界と日本の思想 |
| 12月～ | 復習 |

④生徒の変容

- ・経済思想史の面から現代社会を捉え、これからの社会のあり方について考えることができた。
- ・西洋政治思想史の観点から各国の歴史と現代社会が抱える問題点について比較・分析し、考えを深めることができた。

⑤改善の方向性や取り組み

- ・本校SSHで取り組んでいるユニット制を取り入れ、知識習得・知識活用・課題発見・仮説形成・課題解決・発表を1サイクルとして学習成果の達成度評価の研究を行っていく。

(4) イギリス海外研修事前・事後学習

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 2年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・異文化理解や国際理解の意義を理解し、海外研修の目的意識を明確にする。
- ・海外研修での体験を振り返って自己の成長を認識し、自分の生き方にどう反映していくかについて考える。

③日時内容

| 日時 | 内容 |
|-------------|------------------|
| 平成26年3月28日 | 海外研修概要と事前準備について |
| 平成26年4月15日 | 研修の意義と目標設定 |
| 平成26年5月26日 | コミュニケーションの取り方 |
| 平成26年6月13日 | ホームステイ上のケーススタディ① |
| 平成26年7月15日 | ホームステイ上のケーススタディ② |
| 平成26年11月12日 | 総括と今後の目標設定 |



特別講師による講義



グループワークの様子

④生徒の変容

(生徒アンケートより)

- ・海外研修は単なる外国で行われる研修ではなく、自分の殻を破り目標に向かうための研修なのだと改めて実感しました。ホームステイで七尾のことを話せるように準備して臨みます。
- ・英語はあくまでもツールであり、英語よりも話す内容が大切だと実感した。
- ・海外で活躍する上での心構えを学ぶことができ、気が引き締まった。国際人としてのあるべき姿を学ぶことができた。

⑤改善の方向性や取組

- ・海外研修事前学習の一つに北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）国際連携・国際交流担当学長補佐川西俊吾教授によるワークショップを本校で実施した。多忙な方で講演を依頼することが難しいが、生徒からの反応が非常に良かった講座なので、来年度も継続して川西教授に依頼したい。

3. 特色ある教育活動

(1) 情報に係る講演会

演題「会計事務所における情報活用」

講師 濱田 健司 氏 (濱田会計事務所 税理士)

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 1年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

・会計事務所の情報管理と情報活用および税理士の仕事を学び、情報活用力を向上させる。

③日時

平成26年5月26日(月)



会計士による説明



実践例の提示

④生徒の変容

(生徒アンケートより)

- ・情報を具体的に理解できた。経済学の一部を具体的に理解できた。
- ・社会における情報の扱われ方が具体的に理解できた。
- ・難しすぎない話で会計士の仕事に興味を持つことが出来た。

⑤改善の方向性や取組

- ・会社や税の仕組みを最低限理解していないと話について行けない生徒がいた。事前に資料など用意する。

(2) 「語学キャンプ」

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 1・2年 80名

②目指すべき姿・つきたい力

・国内で海外研修同等の英語漬けの環境で生活し、実践的な英語活用能力を高める。

③日時内容 平成26年8月22日(金)～24日(日) 2泊3日

| | 11H | 21H | | |
|----------------|----------------------------|---------------|------|-----|
| 22 日 (金) | 入所式・オリエンテーション | | | |
| | ALTによる言語活動 | ISA講師による言語活動① | | |
| | 自習 | ISA講師による言語活動② | | |
| 23 日 (土) | ISA講師による言語活動① | ALTとのディスカッション | | |
| | ISA講師による言語活動② まとめポスター作製 | サイエンスダイアログ | | |
| | | 法学 | 日本文学 | 英文学 |
| 24 | まとめポスター作製 | | | |
| 24 | 研修成果の発表(1年生→2年生) | | | |

| | |
|----------|------------------|
| 日 (日) | 研修成果の発表（2年生→1年生） |
| | 退所式 |



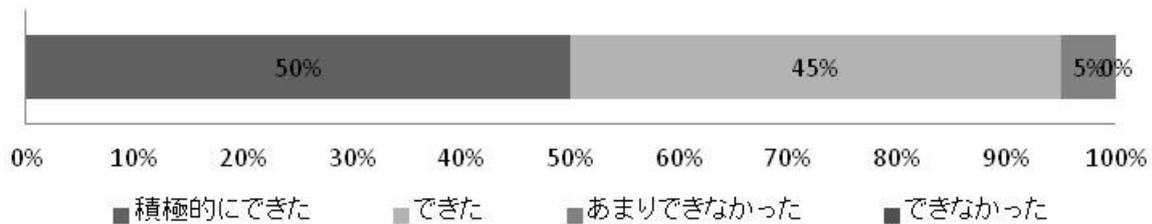
サイエンスダイアログ



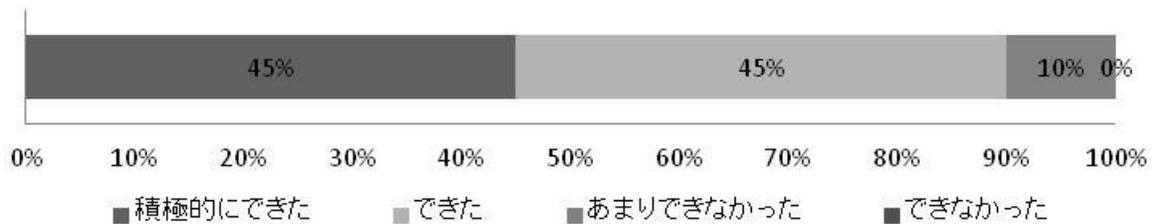
ALTとの言語活動

④生徒の変容

質問 英語のネイティブスピーカーたちとコミュニケーションを図ることができましたか。



質問 語学キャンプを通して、諸外国の文化について理解を深めることができましたか。



(生徒アンケートより)

- ・海外諸国の文化を理解し、深く知ることができた。
- ・英語を積極的に話そうとする意欲や積極性がでてきた。
- ・楽しい活動の中で英語を使えて本当に良かったです。

⑤改善の方向性や取組

- ・今年の語学キャンプより、日本学術振興会が運営しているサイエンスダイアログ（日本の大学や研究機関に所属する外国人研究員による英語での専門講義の聴講）を本研修で実施した。研究員からの講義が生徒の想像していた内容より非常に専門的かつ難解であったため、生徒の理解が伴わない場面もあった。生徒たちが挑戦して乗り越えられるように事前学習を入念に行い、達成感を持って研修を終えることができるよう工夫する。

(3) 「イギリス海外研修」

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 2年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・英語発祥の地イギリスでの体験的・実践的研修を通して、本校1・2年次で学習し、身につけた英語活用能力・英語コミュニケーション能力を向上させる。
- ・異文化交流体験を通して、他を尊重しつつ、かつ、積極的に自分の考えや主張を伝えようとする態度を養う。併せて、礼儀やマナーの意義について考えさせ、国際社会で活躍できる真のリーダーとしての資質を育成する。
- ・イギリスの伝統的な側面と、多民族国家としての側面を体験することによって、他国の歴史や文化、習慣を尊重する態度を養うとともに、国際的・多角的な視点に立って我が国を捉える豊かな知性・感性を涵養する。
- ・研修全体を通し、里山里海に代表される能登の風土や石川の伝統文化・工芸を現地に紹介し、ふるさとの魅力を発信する機会とする

③日時内容

| 日数 | 月/日 | スケジュール |
|----|--------------|---|
| 1 | 9月30日 (火) | 北陸先端科学技術大学院大学 (JAIST) 国際連携・国際交流担当学長補佐 川西俊吾教授によるワークショップ JAIST 見学 (杉田玄白の解体新書原本、ガリレオ等の作品見学) 空路ドバイに向けて出発 (機内泊) |
| 2 | 10月1日 (水) | 飛行機 乗り換え 空路ガトウィック空港に向けて出発 ホームステイに向けてオリエンテーション 各家庭へ (ホームステイ) |
| 3 | 10月2日 (木) | ケンブリッジ大学生によるキャンパスツアー ケンブリッジ大学生とのディスカッション ホストファミリーの家に帰宅 (ホームステイ) |
| 4 | 10月3日 (金) | Gaynes School にて現地生徒との交流 (ディスカッションなど) 現地生徒との交流 (日本文化の紹介) ホストファミリーの家に帰宅 (ホームステイ) |
| 5 | 10月4日 (土) | 終日ホストファミリーと過ごす (ホームステイ) |
| 6 | 10月5日 (日) | ロンドン市内研修 (歴史的建造物や書物から文化財への知見を深める) 海外で活躍する日本人による講演会 (ホテル泊) |
| 7 | 10月6日 (月) | 専用バスにて空港へ 空路ドバイに向けて出発 (機内泊) |
| 8 | 10月7日 (火) | 飛行機 乗り換え 空路日本に向けて出発 七尾高校到着後、解散 |



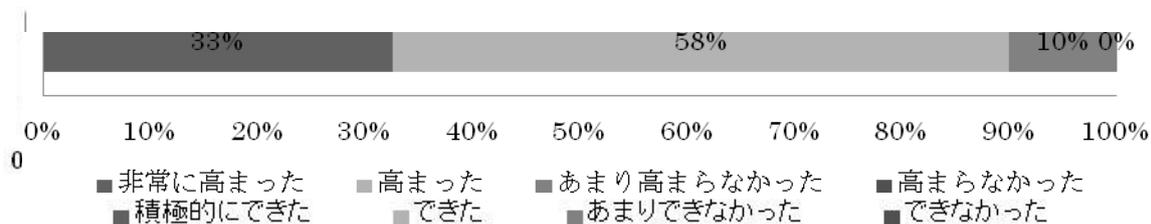
大学生とのセッション



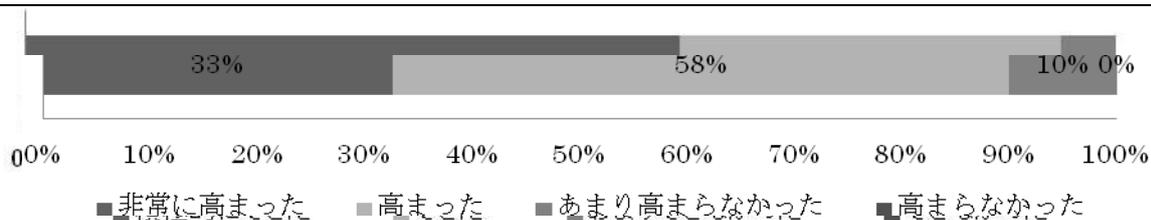
日本文化の紹介

④生徒の変容

質問 課外研修を通して、英語によるコミュニケーション能力を高めることができましたか。



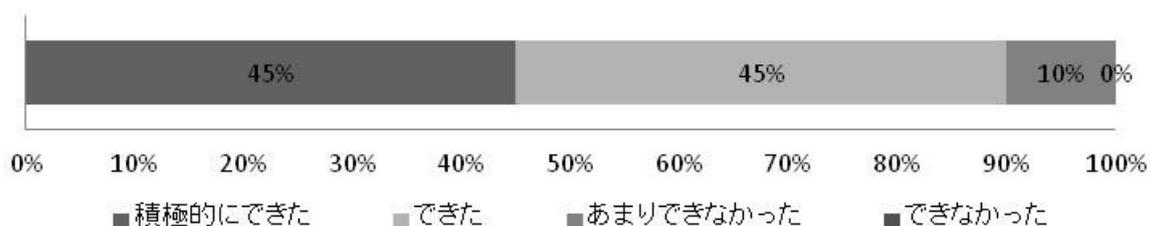
質問 ホームステイを通じて、礼儀やマナーについて意義を感じることができましたか。



質問 ホームステイを通じて、イギリスの文化について理解を深めることができましたか。



質問 海外研修を通じて、能登の風土や石川の伝統文化・工芸を紹介することができましたか。



(生徒アンケートより)

- ・イギリスはもちろん、日本の習慣や文化について改めて知ることができました。「異文化」について理解する絶好の機会です。すごく楽しかったです！英語の知識も高まり、自分を変える良い機会になりますよ。
- ・現地の人の英語はとても速く、くせがあったりして聞き取ることが大変でした。事前に海外の映画やドラマを見ておけば良かったと思うし、帰国した後は字幕なしでドラマを見てみたいです。

⑤改善の方向性や取組

- ・研修中のスケジュールが少々過密気味だという意見があった。8時間の時差があるにも拘わらず生徒たちは研修に取り組み、体力的に苦しかった生徒もいた。また、交通渋滞

で日程変更が生じた場面もあった。スケジュールが非常にタイトなので研修内容や時間設定を見直す必要があるのかも知れない。

(4) おもてなし実習

演題 「和菓子文化に見るおもてなしの心」

講師 行松 宏展 氏 (行松旭松堂 (小松市) 専務)

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 1年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・日本の伝統文化である茶の湯の和菓子作りを体験することで、茶道文化の一端に触れ、おもてなしの心を学ぶ。

③日時

平成26年10月23日 (木)



講義



和菓子作り体験

④生徒の変容

(生徒アンケートより)

- ・人との出会いを大切にすることへの理解を深めた。
- ・一つの和菓子に店の歴史が現れていることに感動した。
- ・これからはお茶菓子を見る目が変わります。

⑤改善の方向性や取組

- ・おもてなしと親切の違いを理解させるのが難しい。日頃の積み重ねにつなげたい。多様な分野から講師を招いて多様な観点から考察できるようにする。

4. その他の取組

(1) NSH成果発表会

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 2年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・現代の国際情勢に対する関心を高め、意欲的に探究する。
- ・日本や国際社会の社会的背景を考察し、主体的に表現する。また、自分の意見を明らかにし、他者に対して論理的かつ適切に表現する。
- ・諸資料から日本や国際社会を取り巻く状況について読み取っている。また、資料を提示し、考察結果を分かりやすく表現する。
- ・日本との比較や関わりの中で、各国の歴史・文化や、現代における国際問題についての基本的知識を身につける。

③日時内容

平成27年2月4日 (水)

④生徒の変容

質問 「国際理解」のディベートの時間を通じて、
「A：筋道立てて意見を述べる力」「B：情報を活用する能力」のうち

■A・B両方の力が付いた ■Aの力が付いた ■Bの力が付いた ■どちらも付かなかった



(生徒アンケートより)

- ・ディベートをすることで論理的に話すということを深く理解できて良かった。
- ・意見や論を構築したり、対立させたりすることで多方面から物事を見ることができた。

⑤改善の方向性や取組

- ・ディベートをするために必要な情報を調べる時間を確保する。
- ・インターネットでの検索だけでなく、書物から正確な情報を取得できる時間を設ける。



ディベートの様子



ディベートの様子

(2) 合同セミナー

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 2年生5名 1年生4名

②目指すべき姿・つきたい力

確かな基礎力を備えた県内トップレベルの高校生が学校や学年の枠を越えて切磋琢磨する中で、論理的な深い思考、協働作業による問題解決、自らの言葉による積極的な発信を経験し、新しいステージへ飛躍する契機とする。

③日時内容

平成26年12月20日(土)

④生徒の変容

(生徒アンケートより)

- ・他校の生徒が粘り強く問題に挑戦している姿を見て、その姿勢に圧倒された。自分も彼らと張り合える力をつけたい。
- ・グループ活動で積極的な意見の交換ができた。一つの高校内で周りと同じ合っていたが、この企画でもっと頑張らねばと思った。

⑤改善の方向性や取組

- ・特になし

(3) モントレー市から訪問したアメリカ人高校生 (MJF) との交流

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 1・2年 80名 MJF高校生24名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・異文化圏の人々と交流することで、外国の歴史や文化に対する興味を喚起し、また、日本文化を発信する能力の育成を図る

③日時内容

平成26年7月24日（木）

調理実習

七尾市、七尾高校、日本のサブカルチャー等の発表

日本文化の紹介とワークショップ（留学生は書道、茶道、空手道など体験）の開催



折り紙体験



茶道体験

④生徒の変容

- ・モンレーの高校生たちは折り紙やケン玉といった日本の伝統的な遊びや空手道体験、習字や和楽器演奏を体験し、それらについて英語で説明することで英語力を向上させることができた。

⑤改善の方向性や取組

- ・MJFとの交流活動は同年代の同士が交流する機会である。高校生が討論しやすいテーマを設定しディスカッションをし、双方で文化の違いを理解し合う活動も次年度の有効な学習活動だと考える。

(4) 「JENESYS2.0」によるニュージーランド高校生訪日団との交流活動

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 1年 40名 NZ高校生18名

②目指すべき姿・つきたい力

日本・地域の魅力を発信する

③日時

10月3日（金）



NZの高校生と手巻き寿司を楽しむ



漢字を説明する様子

④生徒の変容

- ・NZの高校生によるNZの文化紹介により、メディアなどを通じた知識と、実際に体験した経験の違いを理解した。
- ・経験を重ねることで、訪日外国人との交流に抵抗がかなり少なくなった。

⑤改善の方向性や取組

- ・年間を通して何度かある交流プログラムでは、その都度新たな企画を立てるより同じような企画を改善していく方が、内容を深めることが出来、また準備の負担も少ない。